

2019年度沖縄県うるま市における第三の居場所（B）

事業報告書（活動写真）

【利用者状況 3月31日状況】

- 合計 18 名 7 世帯 対象児童 7 名（1~3 年生）
- 保護ケース 5 世帯 要対協ケース 5 世帯 生活困窮世帯 1 世帯
- 不登校 7 名
- 学年別登録児童
保育園生（4 歳児）→ 1 名 幼稚園生（5 歳児）→ 1 名 1 年生→ 3 名 2 年生→ 2 名
3 年生→ 2 名 4 年生→ 5 名 中学 1 年生→ 1 名 中学 2 年生→ 2 名 中学 3 年生→ 1 名
合計 18 名

【開所状況・利用人数】

平日の放課後から最大 21 時まで開所（夕食提供）
長期休業日は朝 9 時から 21 時まで開所（昼食、夕食提供）

○月別状況

4 月 16 日開所 のべ 195 名参加
5 月 20 日開所 のべ 226 名参加
6 月 20 日開所 のべ 229 名参加
7 月 23 日開所 のべ 258 名参加
8 月 19 日開所 のべ 175 名参加
9 月 19 日開所 のべ 219 名参加
10 月 20 日開所 のべ 191 名参加
11 月 21 日開所 のべ 201 名参加
12 月 20 日開所 のべ 175 名参加
1 月 19 日開所 のべ 191 名参加
2 月 19 日開所 のべ 185 名参加
3 月 21 日開所 のべ 231 名参加

合計 237 日開所 のべ 2476 名参加

【職員】

事業統括 1 名 常勤スタッフ 2 名 パート 3 名 調理スタッフ 2 名
ボランティア 8 名

【活動報告】

○学習支援

スタッフの声掛けにより、子ども達が自主的に自分で学習する時間を設定し、宿題などの取り組みが徐々に出来るようになって来ている。

しかし、学習の遅れが目立つ子どもが多く、スタッフや学生ボランティアなど 1 対 1 で見守りが必要。また、学校に協力いただき宿題に代わる、個別の学習テキストなどを提供いただき拠点で取り組んでいる。全体的に学習意欲も高まってきており、高学年から低学年へ教えるなど集団として学習する様子も見えるようになってきた。

○生活支援

外から帰ってきたら手洗いをを行うことや、入浴支援、食後の歯磨きなど体を清潔に保つ事など基本的な生活習慣が身についてきている。昨年までは入浴を嫌がる子ども達も多かったが、シャワールームに体の洗い方をイラスト入りで掲示することで子ども達も意識して体を洗うことが出来た。このような取り組みから身なりをきれいにする事が「気持ちいいこと」ということを実感したように思う。

また、虫歯があった子ども達も関係機関や学校との連携で歯医者に通院することが出来るようになり、食欲もまして肉など硬いものも食べられるようになっている。

○遊び支援

子ども達がやりたい事を中心に放課後の時間を過ごしている。また、子どもの達の状況を見ながら新たな遊びの導入や仕掛けを行うことで子ども達の好き、嫌い、得意、不得意などその遊びに応じて子どもが選択し、自発的に遊びを通し様々な体験ができています。特に集団遊びなど子どもたち同士のコミュニケーションの取り方や、異年齢の集団での遊びがより深く遊びを浸透させているように感じる。その中で、得意な遊びを見つけてはキラキラした目で遊び込む子どもの姿があり、自己肯定感が高まっている。また、夏休みなど計画を子ども達と一緒に立て、やりたい事、行ってみたいところなどを体験することでとても充実した休みを送る事が出来た。

次年度は子ども達が一般の子ども達に遊びをレクチャーできるような機会を多く持ち、子ども達の自己肯定を高められるような取り組みも行っていきたい。

☆遊び・体験の種類

・こま ・けん玉 ・ベーゴマ ・まんから ・オセロ ・将棋 ・ピアノ ・ギター ・ウクレレ ・カホン ・三線 ・シンクタッチ ・お手玉 ・アイロンビーズ ・カードゲーム ・ボードゲーム ・ジェンガ ・ハサマー ・鬼ごっこ ・雑巾かけ鬼ごっこ ・ドロケイ ・氷鬼 ・大様取り ・ゲンペイ ・一輪車 ・スケボー ・キックボード ・虫取り ・散歩 ・湧き水探検 ・滝遊び ・海遊び ・山登り ・キャンプ ・魚とり ・魚釣り ・公園遊び ・映画会 ・動物園 ・水族館 ・工場見学 などなど

○食事支援

琉球大学の浅井教授（教科教育学生生活科学）とその院生が食事に関する助言やプログラム、献立表など「食事から子ども支援」をテーマに様々な角度からアプローチしていただいている。

「保護者お招き食事会」「野草を摘んで食べよう！！」「どんな料理を食べたい？リクエストボックス設置」「季節の野菜を作ろう」「食を軸に子どもの変化を実態調査しよう」他食事をとる際の空間作りやマナー、食材やメニューを知ることなど多岐にわたるプログラムを実施している。その中で子ども達が食に関しての興味関心が増えてきていることや、自分たちで調理することで食べれないものが食べれるようになってきているなど、バランスの良い食事が取れるようになってきている。食に関しての実態調査でも子ども達の変化がみられるようになって来ており、今後も食を通じたプログラムを実施していきたい。

○地域連携

地域の公民館と密に連携を図り、子どもの発見や家庭の状態など包括支援の取り組みができる様なり、地域からの発見で2世帯5名の子ども達が第三の居場所を利用することになった。また、夏休みは地域のお祭りに、一般の子ども達も一緒に遊べる、駄菓子屋さんや手作りクッキー販売、コマやけん玉ベーゴマなど遊べるブースを第三の居場所として参加した。また、冬休みには第三の居場所主催の冬まつりを開催し、近隣の方や学校の先生方、行政担当者、学童クラブなど多くの来場者にも第三の居場所の周知が出来とても良いイベントとなった。

また、田場婦人会（児童民生委員）の3名は週一回調理スタッフとして協力を頂き、子ども達との関係構築に努めてもらい民生委員としての活動の幅を広げている。

○その他の活動

関係者はじめ大学関係者など数多くの方々が視察、見学に来ていただいた。子どもの実態から第三の居場所の活動など中心に意見交換を行った。また、今年度は琉球大学でも教育専攻の学生向けに講義などを行い学生のフィールドワークとして11名の学生を受け入れした。今後教員として活躍する人材に対する、子ども支援現場の実習が、今後の子どもを取り巻く

環境の改善に繋がればと思う。近隣の中部農林高校と連携を行い福祉科の学生もボランティアとして参加する機会も設けた。今後も数多くの方々にこの事業の必要性など周知していき、この事業にかかわってもらいたい。

【活動写真】

○学習支援



苦手な勉強もねーねに見守りしてもらいながら頑張ります。



皆と勉強すると楽しいね！！

○生活支援



週末は学校の上履きと靴を洗います。



今日は第三の居場所で段ボールキャンプ。
どんな寝床が出来るかな！？

○遊び支援



プロの大工さんを講師に木育。テーマは「自分の好きな物を作る」どんなものが出来たかな！？



春のキャンプ
念願の船釣り。大物をゲットし贅
沢な夕飯になりました。



沖縄の伝統芸能三線をみんなで練習中！



ゴールデンウィーク
田んぼフェスタで思い切り泥遊び。



県内の色々な公園で思い切り外遊び。

○食事支援



手作りピザ
思い思いのピザを作りピザ窯で焼きます。



プランターで4種類の野菜
を育てます。「大きくなったら
残さず食べるからね！」



大学生とデザート作り。
皆でおいしくいただきます！！

○地域連携



うるま市福祉祭りで出店
「いらっしやいませ〜」子ども達が張り切って販売しました。



2019 冬の地域交流イベント
地域の方々など招いて祭りを開催。
沢山の子ども達も遊びに来てくれました。



Right-on との合同企画
お気に入りのおしゃれ洋服を購入することが
出来ました。



Right-on との合同企画
お店のスタッフと「あと何円分の洋服が買えるかな？」と計算中！！



地域のオーパーからくずもちの作り方を教えて
もらい、冬まつりの販売に向けて準備中。